

長野・八幡遺跡群社宮司遺跡

1 所在地 長野県更埴市八幡字社宮司

2 調査期間 二〇〇一年(平13) 四月～十二月

3 発掘機関 長野県埋蔵文化財センター

4 調査担当者 町田勝則・上田典男・西 香子・谷 和隆・寺内貴美子

5 遺跡の種類 集落跡(郡衙推定地の一部)

6 遺跡の年代 奈良時代末～平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

社宮司遺跡は千曲川左岸の小支流、佐野川扇状地の扇央部南端、



(長野)

「更級郡衙」推定地に近接し、郡衙関連遺跡の可能性が高い。一九七五年には更埴市教育委員会が調査を実施している。

今回は国道一八号線バイパス建設に伴い約八八〇m²を調査し、平安時代を中心に竪穴住居一七棟、掘

立柱建物三三棟、溝八五条、墓一基と多数の土坑を検出した。特記すべき遺物に、ほぼ完形の緑釉手付瓶、二彩陶器小壺片、国内初出の六角木幢などがある。墨書土器も多く、荷札状木製品も一点出土した。

木簡は、東西方向の幅二m深さ一・五mの一号溝より出土。これより北に遺構はほとんど検出されず、区画の溝と考えられる。覆土には礫を多く含み、土器・木製品・植物遺体が多く出土した。一九七五年の調査ではこの溝より小壺蓋形の三彩陶器が出土した。

8 木簡の积文・内容

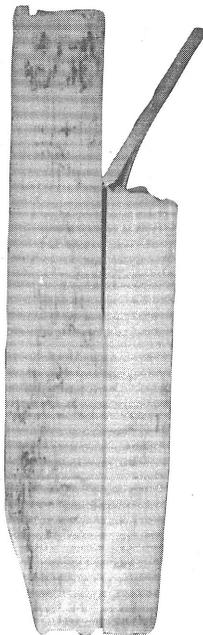
(1) 誠□緘城咸□

(131)×34×4 081

上下端折損、縦に二つに割れ、下方左側は斜めに削られている。つくりの似た漢字を練習した習書木簡と思われる。材質はサワラ。

9 関係文献

長野県埋蔵文化財センター『長野県埋蔵文化財センター年報一八』(二〇〇一) (寺内貴美子)



(赤外線写真)